

令和 7 年度

修 繕 仕 様 書

修 繕 名	管理本館エレベータ修繕		
修 繕 箇 所	荒川水循環センター (戸田市笹目地内)		
修 繕 大 要	修繕期間	契約日～令和 8 年 3 月 2 3 日	
	修繕内容	管理本館に設置されている既設エレベータの制御盤等 電気関連機器、部品の交換作業及び調整試験一式	
	対象機器	荒川水循環センター	機器台数
		管理本館エレベータ	1 台
		計	1 台

本修繕費内訳書

[illegible]

昇降機設備修繕費			B－1 代価表		
種 別	数 量	単 価	金 額	摘 要	
	単 位				
乗場改修費					
	式	1			
乗場意匠器具改修費					
	式	1			
かご改修費					
	式	1			
ドア安全装置改修費					
	式	1			
福祉仕様改修費					
	式	1			
機械室改修費					
	式	1			
昇降路改修費					
	式	1			
管制運転改修費					
	式	1			
産業廃棄物処分費					
	式	1			
計					

特 記 仕 様 書

管理本館エレベータ修繕

令和 7 年度

公益財団法人埼玉県下水道公社

目 次

第1章 共 通

第2章 対象機器

第3章 修繕内容

別表1 修繕対象機器 エレベータ仕様書

管理本館エレベータ修繕 図面一覧表

第1章 共 通

1 適用範囲

この特記仕様書は、本修繕に適用し、公益財団法人埼玉県下水道公社修繕標準仕様書を補足する必要な事項を定めるものとする。

2 概 要

本修繕は、荒川水循環センター（戸田市笹目地内）に設置されている管理本館エレベータを長期にわたり円滑に稼働させるため実施する。

3 適用規格

次の諸規定を遵守すること。

なお、規定は本修繕契約時における最新版を使用する。

- ・ J I S
- ・ J E C、J E M
- ・ 電気設備技術基準
- ・ 機械設備工事一般仕様書（日本下水道事業団編著）
- ・ 電気設備工事一般仕様書・同標準図（日本下水道事業団編著）
- ・ 機械設備工事必携（日本下水道事業団編著）
- ・ 電気設備工事必携（日本下水道事業団編著）
- ・ 機械設備工事特記仕様書（日本下水道事業団編著）
- ・ 電気設備工事特記仕様書（日本下水道事業団編著）
- ・ 機械設備標準仕様書（日本下水道事業団編著）
- ・ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（国交省大臣官房官庁営繕部監修）
- ・ 公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（国交省大臣官房官庁営繕部監修）
- ・ 埼玉県機械設備工事特別共通仕様書
- ・ 埼玉県電気設備工事特別共通仕様書
- ・ 埼玉県建築工事实務要覧
- ・ 埼玉県土木工事共通仕様書
- ・ 日本冷凍空調工業会標準規格

4 対象機器

対象機器は、第2章のとおりとする。

5 修繕内容

本修繕内容は、第3章のとおりとする。

6 注意事項及び条件

注意事項及び条件は次の事項のとおりとする。

- ・ 据付作業は正確に行い、長期の使用に十分耐えられるものとする。
- ・ 施工に電動工具を使用する場合は、保護装置を介して施設の運転に影響を及ぼさないようにすること。
- ・ 設備停止及び部分停電を必要とする場合は、予め監督員と打合せを行い、停止時間及び停電時間の短縮に努めること。
- ・ 施工前または施工後に行うC/C盤等の電源遮断や電源投入は監督員、現場代理人等の立会いの下で行い、施工中であることを表示すること。

- ・受注者が電源を用意して使用する場合は、電気主任技術者の承諾を受けること。移動型自家発電機（10kW以上）を使用する場合は、経済産業省に届け出ること。
- ・枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省）によるものとし、足場の組立てについての種類、機材性能、使用方法等については「手すり先行工法による足場設置基準」によるものとする。
- ・石綿（アスベスト）の恐れのある場所は確認を実施し、必要に応じて対策を行うこと。
- ・受注者は、作業着手前に関連労働者等のダイオキシン類暴露防止を定めた「ダイオキシン類暴露防止作業計画」を施工計画書と共に提出すること。なお、焼却炉施設内作業におけるダイオキシン類への暴露防止対策については、管理レベルに応じた資機材を使用すること。
- ・高所及び地下における作業は、転落に十分注意し、必要な安全対策を講じること。
- ・配管貫通口を開ける際は、壁が鉄筋コンクリート造のため、スキャン式調査等を行い、調査結果及び施工箇所を監督員が確認した後に、適切に施工すること。
- ・酸素欠乏危険作業場所及び類似の危険作業においては、法令で定められた作業主任者講習や特別教育終了者以外の者が業務に就かないこと。また、作業主任者を選任すること。
- ・管渠、槽内などにおいて、酸素欠乏、有害ガス等が発生する恐れがある場合は、施工前にその有無を酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者が測定し、安全を確認したうえで実施する。施工時は常時測定監視及び換気を行うこと。なお、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了書の写しを施工計画書または作業要領書に添付すること。
- ・作業中に異常があった場合は、直ちに作業を中断し監督員に連絡すること。
- ・有害ガスの飛散その他事故が発生した場合は、直ちに監督員に連絡するとともに必要な応急処置を行うこと。
- ・万が一事故が発生した場合に備え、緊急連絡体制を整えておくこと。
- ・危険な作業範囲内には、立ち入らぬよう標識・バリケード等を設置し、吊り荷重の確認を行い、作業に見合った適切なクレーン車等を用いて実施すること。
- ・施工場所の近隣に施工日時等を事前周知すること。
- ・施工にあたり発生する現場発生品は、受注者が適正に処分すること。
- ・修繕期間中は、工事用看板を設置すること。

7 負担区分

施工にあたり、次に掲げるもの以外の消耗品等は受注者の負担とする。ただし、使用については取扱いに十分注意し、監督員の指示に従うものとする。

- ・用水
- ・試験用電源（AC100V-15A以下に限る）
ただし、停電時、停電作業時等で発注者が電力を供給できない場合は、受注者が発電機等を用意して実施すること。
- ・既設照明設備
- ・その他、監督員が認めたもの

- 8 建設副産物情報交換システム（COBRIS）への入力等について
受注者は、建設副産物の処分等に関し、建設副産物情報交換システム（COBRIS）を用いて本修繕工事完了後に再生資源利用（促進）実施書を作成し、監督員に提出すること。
- 9 下水道施設台帳システムに係る電子データの提出
本修繕の結果について、公社が指定する様式（電子データ）に情報を整理し、電子データを提出する。
なお、詳細については、監督員と協議を行うものとする。
- 10 環境配慮への取組
環境負荷の低減や汚染・事故防止、環境管理体制の確立を図るとともに、地域・住民への信頼性の向上を図ることを目的とし、公益財団法人埼玉県下水道公社が行う環境に配慮した活動に積極的に参加すること。
- 11 成果品の電子納品
受注者は、公益財団法人埼玉県下水道公社修繕（建設工事）標準仕様書の提出書類一覧表に定める報告書、写真、完成図書を電子データ（PDF形式）で提出すること。
また、電子データで提出した場合は、紙面での提出は不要とする。
- 12 その他
本修繕に関連する作業について、発注者が調整し、受注者はこの関連作業について円滑施工に協力すること。

第 2 章 対象機器

対象エレベータ

管理本館用エレベータ 1 基

型式 人荷共用エレベータ O-1 5 (1000)-0 4 5 M-2 S L-0 4 T

用途 人荷共用
制御方式 インバータ制御方式
操作方式 セレクチブ・コレクチブ
積載荷重 1, 000kg
定員 15名
速度 45m/min
構造 ロープ式
非常停止 地震時管制運転
停電時自動着床
その他 音声合成案内装置
停止箇所 4箇所 (B, 1, 2, R階)
製造年 平成 1 2 年
製造業者 フジテック株式会社

第 3 章 修繕内容

管理本館エレベータ

1. 乗場

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業 (別表 1 参照)
- (4) 発生材の法的適正処分一式
- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

2. 乗場意匠

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業 (別表 1 参照)
- (4) 発生材の法的適正処分一式
- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

3. かご

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業 (別表 1 参照)
- (4) 発生材の法的適正処分一式

- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

4. ドア安全装置

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業（別表1参照）
- (4) 発生材の法的適正処分一式
- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

5. 福祉

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業（別表1参照）
- (4) 発生材の法的適正処分一式
- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

6. 機械室

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業（別表1参照）
- (4) 発生材の法的適正処分一式
- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

7. 昇降路

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業（別表1参照）
- (4) 発生材の法的適正処分一式
- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

8. 管制運転

- (1) 段取り及び養生作業
- (2) 装置分解・点検・清掃作業
- (3) 部品交換・組立作業（別表1参照）
- (4) 発生材の法的適正処分一式
- (5) 試運転調整一式
- (6) 清掃・補修塗装及び片付け作業

修繕対象機器 エレベータ仕様書

1 機器一覧

No	名称	型式、仕詳細様	数量	単位
1	オーダー型エレベータ制御盤交換パッケージ	型式：WS-1000-2S45 用途：人荷用 制御方式：ロープ式インバータ制御 操作方式：セレクトチブ・コレクチブ 積載量：1000kg 定員：15名 速度：45m/min 戸閉方式：2枚戸片開き（2S） 出入口寸法：正面 幅 1100mm・高さ 21mm かご内寸法：間口 1600mm・奥行 1500mm・高さ 2400mm 出入口方式：一方向出入口 停止箇所：4停止（B, 1, 2, R階）	1	台
2	その他基本仕様	非常用エレベータ仕様：なし 車いす仕様：あり タッチレス呼び登録：プッシュ式ボタン一体型エアータップ	1	式
3	基本付加仕様	既存不適格継承		
4	その他	専用運転：専用運転（操作盤内WS切替） 高周波ノイズ対策：絶縁トランス	1 1	式 式

2 修繕内容

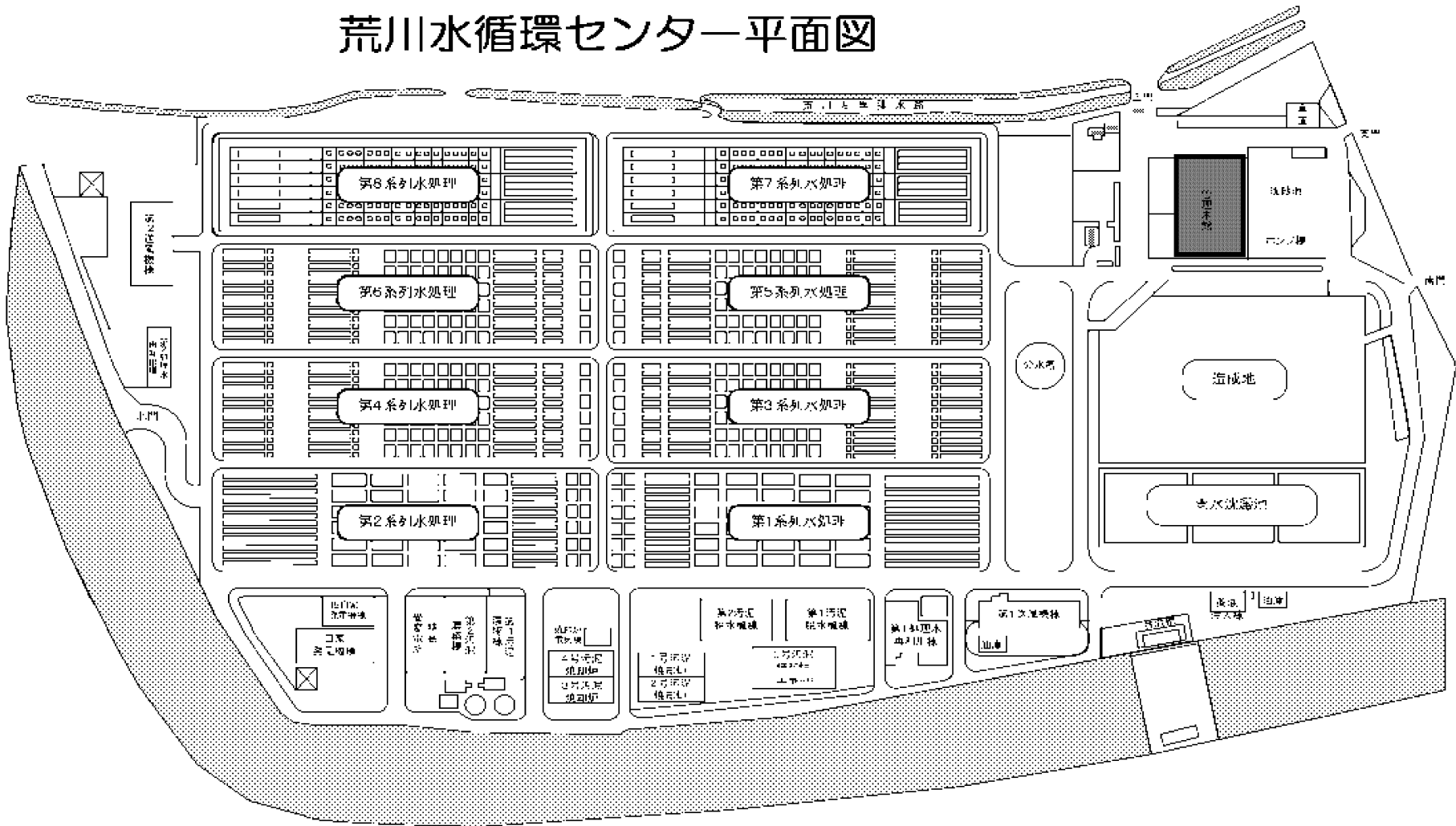
No	名称	型式、仕詳細様	数量	単位
①	乗場	三方枠 [B, 1, 2, R階]：【既設使用】 乗場扉 [B, 1, 2, R階]：【交換】化粧鋼板 乗場開閉装置 [B, 1, 2, R階]：【交換】 乗場扉敷居 [B, 1, 2, R階]：【既設使用】	4 4 4 4	箇所 箇所 箇所 箇所
②	乗場意匠器具	乗場意匠器具：【交換】 インジケータ（独立型）：[B, 1, 2 デジタル（横型）式ステンレスヘアライン, R階] ホールランプ [B, 1, 2, R階]：HB+WHB ステンレスヘアラインプレート 非接触一体型樹脂タタイル釦 点灯色：アンバー	4 4	箇所 箇所
③	かご	かご天井：【既設使用】照明LED化 かご側壁：【既設使用】 かご扉：【既設使用】 かご開閉装置：【既設改造】※インバータ制御化 かご敷居：【既設使用】 かご操作盤：【交換】液晶CPI 液晶CPI組込 ステンレスヘアライン 非接触一体型樹脂タタイル釦（閉・非常呼は抗菌タタイル釦）点灯色：アンバー 車いす操作盤：【交換】車いす専用（主副）操作盤 壁掛け（デジタルIN） ステンレスヘアライン 抗菌タタイル釦 点灯色：アンバー	1 1 1 1 1 1	式 式 式 式 式 式
④	ドア安全装置	かごドア光線装置：【追加】多光軸ドアセンサー	1	式
⑤	福祉	音声案内装置：【交換】気配リアナウンス（VONIC-S） 視覚障がい者仕様：なし 聴覚障がい者仕様：なし	1	式
⑥	機械室	巻上機：【既設使用】 モータ：【交換】 制御盤：【交換】 調速機：【交換】	1 1 1	式 式 式
⑦	昇降路	ロープ：【交換】 移動ケーブル：【交換】 リミットスイッチ：【交換】 レール：【既設使用】 釣り合いおもり：【既設使用】 緩衝器：【既設使用】	1 1 1	式 式 式
⑧	管制運転	地震時自動診断回復旧運転機能追加：【機能追加】 P波センサー付 地震時管制運転：【機能追加】 停電時自動着床装置（ランディック）：【交換】	1 1 1	式 式 式

注）機器選定にあたっては、既設設備との整合性（マッチング）を考慮して選定すること。
仕様・型式等に変更がある場合は、変更内容の詳細がわかるように記載すること。

管理本館エレベータ修繕 図面一覧表

図 番	図 面 名
1	荒川水循環センター平面図
2	制御盤交換パッケージ取替部品図
3	荒川水循環センターエレベータ制御盤交換パッケージ取替項目表
4	管理本館エレベータ据付図① [WS-1000-2S45]
5	管理本館エレベータ据付図② [WS-1000-2S45]
6	かご内室図 [WS-1000-2S46]
7	修繕内容一覧図
8	意匠器具図

荒川水循環センター平面図



対象箇所

図 番	図 面 名
1	荒川水循環センター平面図

制御盤交換パッケージ取替部品図

基本仕様

①制御盤取替

制御盤を交換、遠隔監視機能を追加する。

②かご内操作盤取替

操作盤を交換する。

③主モータ取替

モータを交換する。

④ドアインバータ化

ドアモータをインバータ制御式に交換し、ドアコントロールを追加する。

⑤トラベリングケーブル取替

平型ケーブルに交換する。

⑥⑦地震感知器P波・S波更新

初期微動をキャッチするP波及び本震をキャッチするS波地震感知器を設置する。

⑧乗場インジケータ取替

乗場インジケータをタタイル(凸字)ボタン、発音機能装備でステンレス製に交換する。

⑨ランディック盤更新

最寄階まで自動着床を可能にするランディック盤を交換する。

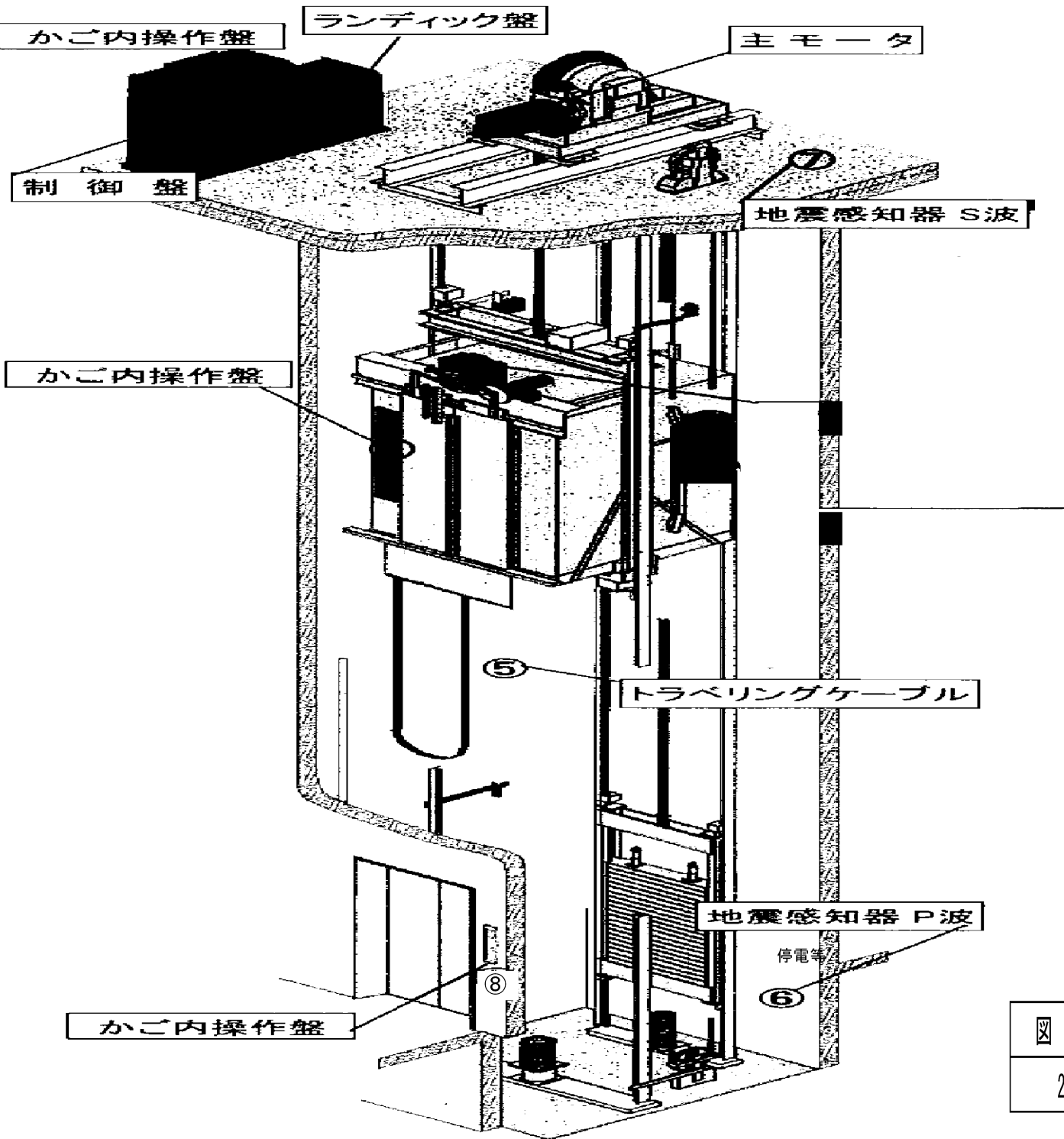


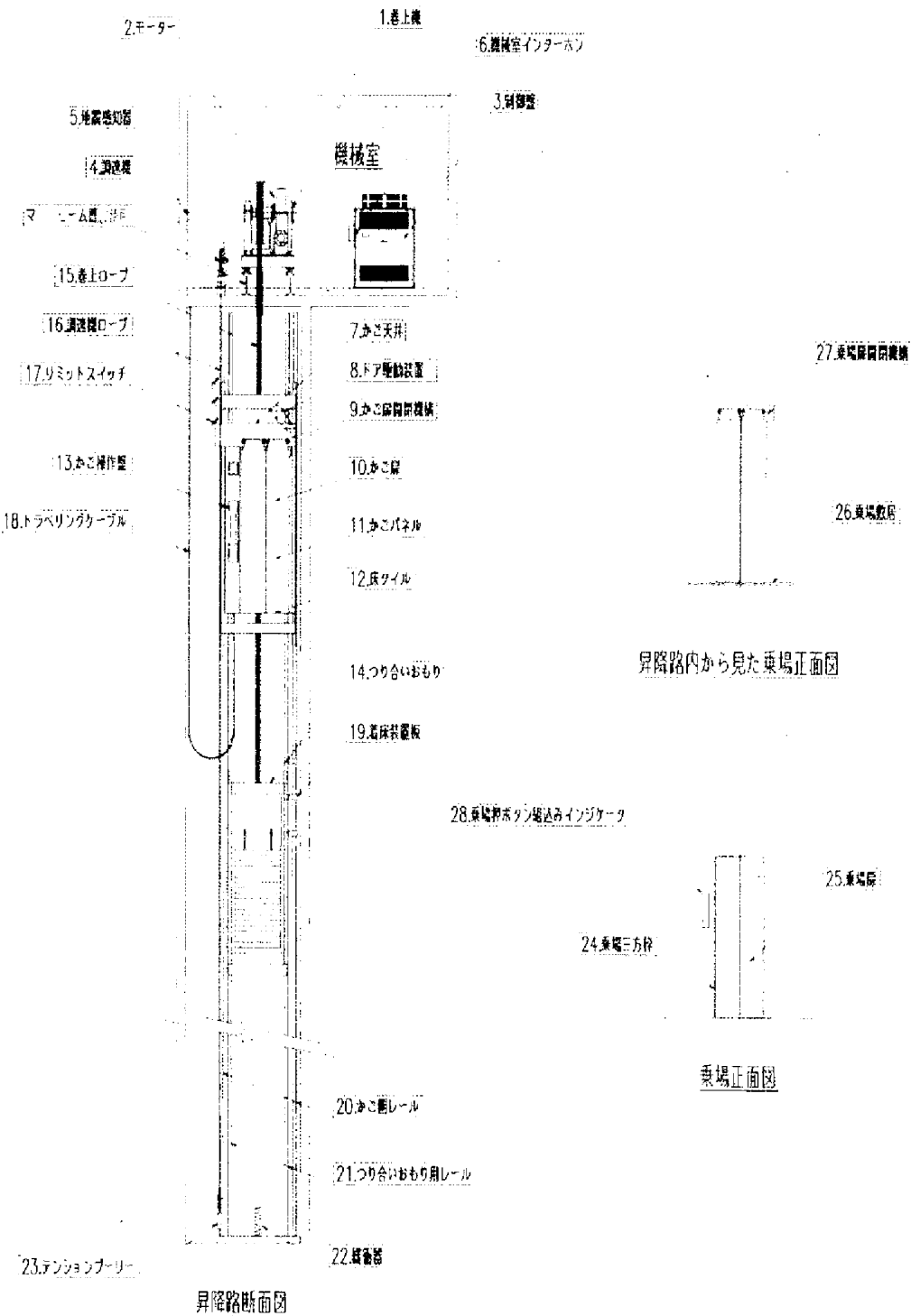
図 番

2

図 面 名

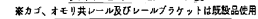
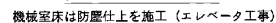
制御盤交換パッケージ取替部品図

「荒川水循環センター」エレベータ制御盤交換パッケージ取替項目表



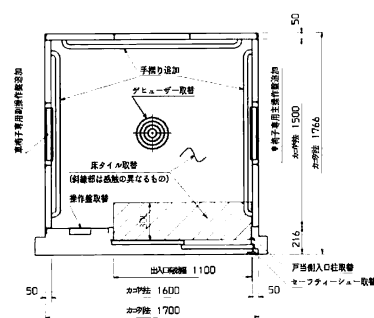
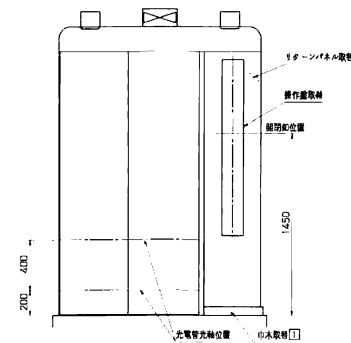
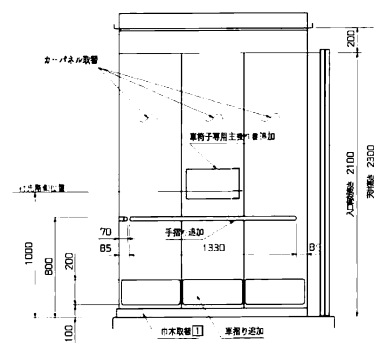
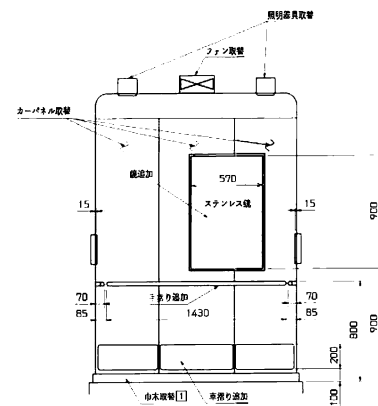
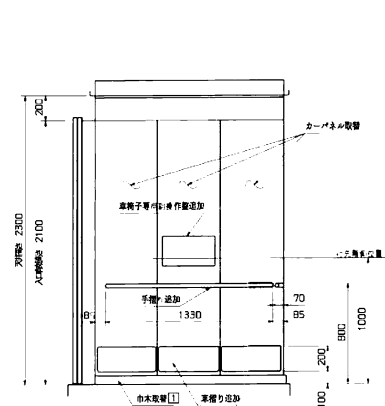
	名称	今回
機械室	1 巻上機	既設
	2 モーター	取替
	3 制御盤	取替
	4 調速機	取替
	5 地震感知器	取替
	6 インターホン マシンビーム	既設 既設
かご	7 かご天井	既設
	8 ドア駆動装置	取替(インバータ化)
	9 かご扉開閉機構	既設
	10 かご扉	既設
	11 かごパネル	既設
	12 床	既設
	13 かご操作盤	取替
	かご敷居	既設
	14 つり合いおもり	既設
	15 巻上ロープ	取替
	16 調速器ロープ	取替
	17 リミットスイッチ	取替
	18 トラベリングケーブル	取替
昇降路内	19 着床装置板	取替
	20 かご用レール	既設
	21 つり合いおもり用レール	既設
	22 緩衝器	既設
	23 テンションプーリー	既設
	24 乗場三方枠	既設
	25 乗場扉	取替
	26 乗場敷居	既設
	27 乗場扉開閉機構	取替
	28 乗場押釦、インジケータ	取替
付加仕様	停電時自動着床装置	取替
	耐震対策14A(法適合)	未適合
	戸開走行保護装置	未対応

図番	図面名
3	荒川水循環センターエレベータ制御盤交換パッケージ取替項目表



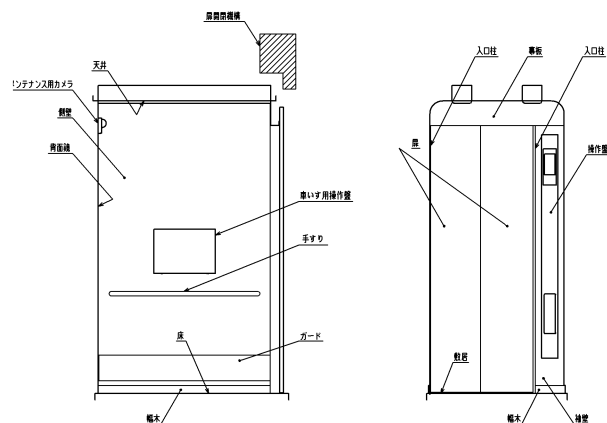
換気室エレベータ機室発熱量	4750	KJ/H
換気扇必要風量	560	M ³ /H

図 番	図 面 名
4	管理本館エレベータ掘付図① [WS-1000-2S45]

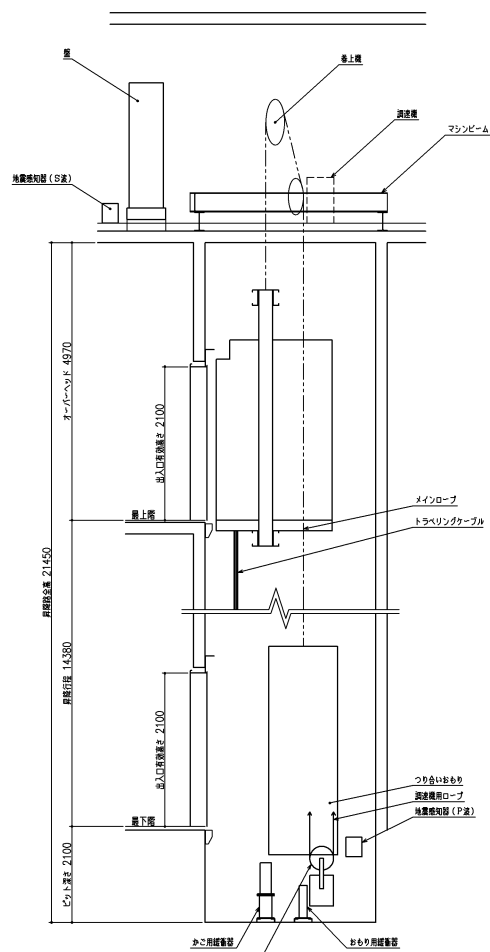
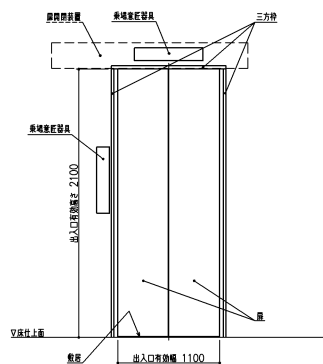


追 加 仕 様	
車 椅子 専 用	
主・副 操 作 盤	
床 覆 り	ステンレスヘアークライン仕上
手 すり	34φパイプ ステンレス製ヘアークライン仕上
鏡	ステンレス鏡面仕上 (周囲サンドブラスト)
光 電 管 装 置	光軸高さ H=200、600
カゴ内化粧シート貼付	
管 戸 合 成 窓 内 装 置 荷 重 検 出 装 置	
取 替 部 品	
操 作 盤	ステンレス製ヘアークライン仕上
カーネル	1=1.6 鋼板塗装仕上 (サビ止め塗装のみ)
リターンパネル	1=1.6 鋼板塗装仕上 (サビ止め塗装のみ)
照 明 器 具	40W×1灯×2カ所 (操作盤源のみ電灯兼用) ル ー バ ー (乳白色アクリル)
入 口 柱	ステンレス製ヘアークライン仕上 (戸 当 面 の み) (光電管用孔付)
セーフティシュー	光電管用孔付
フ ェ ン	250φ (デヒューザー含む)
床 タ イ ル	600×600タイル (床下ベニア含む)
巾 木	ステンレス製ヘアークライン仕上

図 番	図 面 名
6	かご内室図 [WS-1000-2S46]



かご内室図



名 称		既設	新設	備 考
天井	天井パネル	●		
	照明		●	LED化
	停電灯		●	LED化
	換気設置	●		
側壁		●		
扉			●	化粧調板
導板		●		
増設		●		
入口柱			●	ステンレスヘアライン仕上
板木		●		
敷居		●		
床	床版	●		
	床仕上材	●		
設備関係機		●		インバータ制御
排付管		●		
窓いす 取付装置		●		
両面鏡		●		
手すり		●		
ガード		●		
メンテナンス用カメラ			●	122万画素
付属品			●	光電式歩光輪ドアセンサー
			●	視覚障がい者付録（音声案内設置・点字）

名 称	既設	新設	備 考
三方枠 (金網)	●		
扉 (金網)		●	化粧鋼板
扉開閉装置 (金網)			
教席 (金網)	●		
乗降窓監視器具 (金網)		●	
付属品	●		注意板

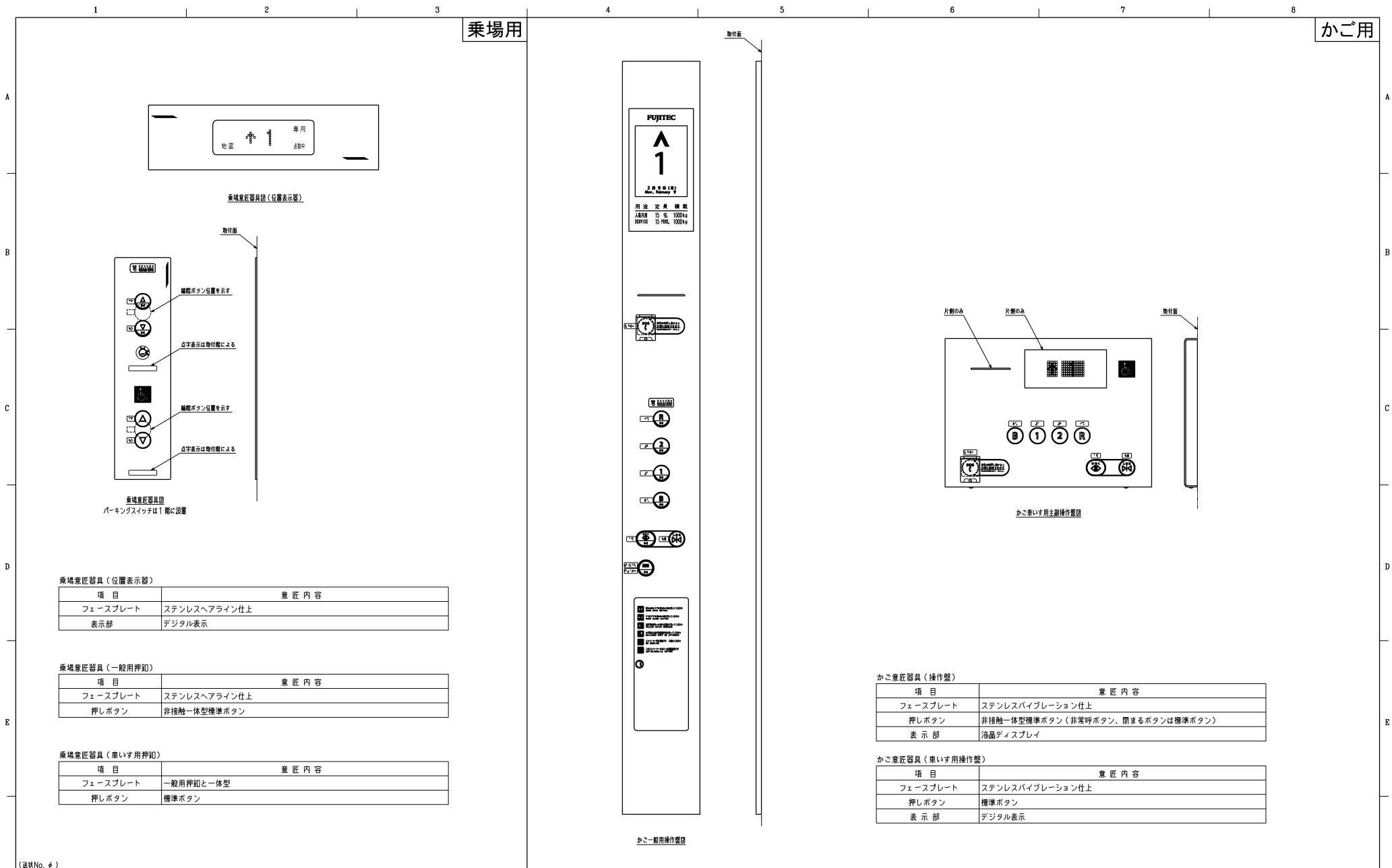
■機軸室断面図		既設	新設	備 考
名 称				
巻上機	巻上機本体	●	●	
	モータ	●	●	
	メインシーブ	●		
	ソラセシーブ	●		
マシンビーム		●		
調速機		●		
筐	制御盤		●	
	停電時自動巻戻装置		●	
	絶縁トランス盤		●	
地震感知器（S波）			●	

■昇降路新造図		備 考
名 称	既設	新設
メインロープ	●	●
誘送機用ロープ	●	●
誘送機用送り車	●	●
トラベリングケーブル	●	●
かご用緩衝器	●	
おもり用緩衝器	●	
地震感知器（P送）		●
つり合いおもり	●	
ガイドレール	●	
レールブラケット		● 全段更新

		仕 様 一 覧			
	名 義	—			
	用 途	人達共起（重13用）			
	制御方式	インバータ制御方式（電圧発生無し）			
	運転仕様方式	統合全自動方式			
	重 載	1000	kg	15	m/m
	速 度	45			
	動力用電圧	200	v	50	H
	電圧制御方式	7.5			k
	停止時間及び後	—		4	
		(注8) B、1—2、R		—	
		(有線)		—	
	方式方法	(開口) 1600	mm	(開口) 1500	
	出入口口寸法	(開口) 1100	mm	(車身) 2100	r
	戸の方式	2枚引き式（電動式）			
	おもひ	45		%タタン	
	地盤時常運転	●：（P・S波） リスタート運転機能付			
機	文型時常運転	—			
制	停電時自動復帰	●			
	停止時常運転	—			
能	自然発生時常運転	—			
	緊急地震速報運転	—			
	長距離地震時常運転	—			
特 記 仕 様		高誤差対策（車検トランシブ）			
		視覚障がい者利用（音響案内装置・点字）			
		Airtop 非接触式運転			
		自動制御・急停止機能（注）			
		新製後（1994年）からの新製車は全不適合解除			

(注)：NEWゴールドモンテナソズ契約により有効となる履歴です。

図 番	図 面 名
7	修繕内容一覧図



図番	図面名
8	意匠器具図